

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

科 目 名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
コンサルティング実践特論		Z 103	2単位	4学期	ハイフレックス
Consulting Practicum					
科 目 分 野		課 程 領 域			
戦略思考・コンサルティング		イノベーションマネジメント共通科目			
担 当 教 員 名	メー ル ア ド レ ス		連 絡 方 法 / オ フ ィ ス ア ヱ ー		
岡田 和典	－		メールアポイントにて随時		

関 連 し て い る 科 目 (履修推奨科目)		
戦略思考要論・特論・演習	企業戦略要論・特論1・特論2	マーケティング系科目

授 業 の 概 要 と 到 達 目 標

授業の主題と概要

変化のスピードが加速化し、過去の経験則が通用しづらくなった時代の中で、今後あらゆる場面で明暗がはっきりと分かれることは明白である。このような時代において、成長し続け新たなステージに進むためには、これまでの経験や単なるコンサルティング手法の修得だけでは不十分である。

予測し得ない時代を切り開くために、実践的で「使える」思考法やモノの捉え方等を最新事例を基に複合的に学び修得する。

- ① 実践的な活用シーンを理解する。そのために必要となる基礎的な思考力(「リソースマネジメント」「6W2H」「BMG他実践的戦略的フレームワーク」「ABC/M法によるBPR及び戦略的管理会計」「事業計画立案」)を修得する。
- ② 豊富な事例をもとに、コンサルティングによる企業変革の本質を理解する。
- ③ 実践に活かせることに主眼を置き、ミニケースを多用し、繰り返しの訓練を行う。
- ④ 最終回は受講生による「発表会」を予定する。ここでの発表内容を最終レポートに代替する。

到達(修得)目標

1. 各方法論の修得にとどまらず、実践に活かすためにはどのような思考プロセスが必要なのかを「体得」する。
2. 日常生活の中で、「無意識を意識化する」活動を継続的に実行できるマインドセットを「体得」する。
3. あらゆる角度から物事を判断することができる柔軟性、素早く行動できる迅速性を「体得」する。

受講対象者

日々の業務で、業務変革・戦略構築を求められる全ての方々を対象とする。
リーダーシップをあらゆる場面で発揮する必要性のある幹部層・経営層を主な対象とする。
経営用語等については基礎的な知識があることが望ましい。

履 修 上 の 注 意 事 項 や ア ド バ イ ス

・PC(エクセルとパワーポイント)を使うケーススタディがある。

※ 欠席が、4コマ(90分=1コマ)を超えた場合は、単位取得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コ ン ピ テ ン シ 修 得 目 標

知識領域(Y軸)		ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力	○	X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案		Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プ ラ ク テ ィ カ ム

イ ベ ン ト / ケ ー ス		教 育 技 法	マ テ リ ア ル / ツ ー ル
1	ケーススタディのチーム討議と発表、全体討議	ケーススタディ	
2	修得したスキルをフル活用した「企業変革アクションプラン」の策定	自社課題	

評 価 の 方 法		
(総合評価項目と割合)		評 価 の 要 点
講義中の発言貢献	30%	毎回、事務室より出席簿を準備する。 講義中の発言貢献: 質と量を考慮する。特に質に重きを置く。 グループワークでの役割貢献: 主体的にグループワークに参加しているかに重きを置く。 最終発表会での内容: そこでの発表(と質問)の質を総合的に評価する (発表資料はmailにて講師に、前日夜までに提出のこと)
グループワークでの役割貢献	30%	
最終発表会での内容	40%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備 考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	資料を配布	適宜学事ポータルサイトに掲載予定
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	1.『ロジカルシンキング』照屋華子、岡田恵子(東洋経済新聞社) 2.『ABC/ABM実践ガイドブック』松川孝一(中央経済社) 3.『ビジネスモデルジェネレーションモデル設計書』アレックス・オスワルダー(翔泳社)	講義受講前に読破しておくことが望ましい。その他、講義期間中も適時推奨図書を挙げていく予定。

参 考 U R L
適宜紹介予定

(注意) 有効性を考慮して使用予定のケースは変更する場合がある。 開講日程変更の可能性あり

コマ	学 習 内 容		事前準備・課題	担当者	時間
1.2	企業価値創造戦略			岡田	180分
	イベント	ミニケース:「勝ち組」企業の条件(グループワーク、ディスカッション)			
3.4	戦略的思考 フレームワーク(6レバー、QCDE、SWOT)活用による戦略的思考法 6W2H活用による改革実現のためのアプローチの修得		課題図書の読破 (2冊)	岡田	180分
	イベント	ケーススタディ:フレームワークを使った企業分析(ディスカッション)			
5.6	ABC/ABM概論 (活動基準原価計算/管理法)の基礎を解説。 第4、5回でその活用シーンを解説するための概要を説明		課題図書の読破 (1冊)	岡田	180分
	イベント	ミニケース:ABCの活用シーン(グループワーク、ディスカッション)			
7.8	BPR ABC法を活用した、実践的業務プロセス変革 企業成長を真に実現する業務効率化とは?		3回目の復習	岡田	180分
	イベント	ケーススタディ:トイレタリーメーカーA社のBPR(グループワーク、ディスカッション)			
9.10	戦略的管理会計 単なる会計知識ではなく(財務会計との違い等)、管理会計を 企業変革に活用することによる企業変革の実現法を学ぶ		3、4回目の復習 課題図書の読破	岡田	180分
	イベント	ケーススタディ:中間流通業B社の営業利益向上施策立案(グループワーク、ディスカッション)			
11.12	PLM、BMG、デザイン思考及び総括 最新のフレームワークによる未来思考の重要性を学ぶ これまでの5回で学んだ手法を融合することにより、 どのような企業変革が実現するのかを事例を交えて学ぶ		第5回までの復習	岡田	180分
	イベント	特になし			
13.14	受講生全員による自社事業課題の発表会 (発表とディスカッション)		修得したスキルを総動員 するための復習及び プレゼン資料の作成	岡田	180分
	イベント	課題の発表及びディスカッション			
15.16	総括			岡田	180分
	イベント	特になし			

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。
※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。